

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立大島高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭 1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任（主任教諭）、生活指導主任（主幹教諭）、進路指導主任（主幹教諭）家政科主任（主任教諭）、農林科主任（教諭） 計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(大学准教授)、PTA会長、大島町教育委員会教育長、大島町立小中学校長会長、同窓会長、大島観光協会会長、民間企業社長、警察署防犯係 計8名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月7日（金）開催
内部委員8名、協議委員8名 授業見学後、協議
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和6年10月4日（金）学校評価アンケートについての協議
内部委員8名、協議委員8名
前期教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討
 - 第3回 令和6年2月7日（金）開催
内部委員8名、協議委員8名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月7日（金）開催
内部委員2名、評価委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和6年10月4日（金）学校評価アンケート内容について
内部委員2名、評価委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和6年2月7日（金）開催
内部委員2名、評価委員2名開催
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

| | | | |
|------------|---------|--------|----------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：113人 | 回収：68人 | 回収率：60% |
| ・12月 保護者全員 | 対象：113人 | 回収：41人 | 回収率：36% |
| ・12月 地域・住民 | 対象：32人 | 回収：32人 | 回収率：100% |
| ・12月 教職員 | 対象：26人 | 回収：26人 | 回収率：100% |
- (3) 主な評価項目
・生徒、保護者、教員、地域住民に共通して「学習面」、「生活指導面」、「進路指導面」、「特別活動面」、「その他」に分類した約16項目を設定した上、自由意見欄を設けた。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・はじめにアンケートの回収状況について、生徒60%、保護者36%と非常に低く、対象者全体の意識や意向を正確に反映したとは言い切れない結果となった。来年度は回答率を上げる工夫をする。
 - ・アンケート結果より、学校はいじめ防止等の対策に取り組んでいるかという点において、肯定的な回答が6割程度である。目に見える形での取り組みを一層充実させることが必要である。
 - ・保護者アンケートの「体罰や暴言をなくすために積極的に取り組んでいる」の項目では、今年度は肯定的な回答の数値が17%低下した。今後は、保護者との話し合いを充実させ、相互に理解を深められる取組を充実させる。

・教職員のアンケートからは、放課後の学力向上の取組に肯定的な回答が7割であった。指導体制や時間帯、場所の確保に課題がある。

・「校内の清掃が行き届いている。」の項目は肯定的な回答が6割程度である。立地条件や校舎の老朽化もあるが、日常的な清掃に関しては、生徒数が減少する中、教職員で分担する部分も必要である。

・教職員の「ライフ・ワーク・バランスの実現向上」では、肯定的な回答は6割であった。行事の準備や部活動遠征、農場管理、日常的な業務の効率化を検討し、意識を変えていかなければならない。

・入学して良かったかの結果が生徒95%保護者81%と高評価であった。本校の教育活動に理解を示し、成果に結びついていることが分かる。

・地域のアンケートからは、「服装や頭髪の指導を行っている」「いじめ防止等の対策を実施している」「部活動が盛んである。」「地域の小・中学生を進学させたい学校である。」の項目で、肯定的な回答が6割以下であった。東京都の生活指導方針の転換や生徒数の減少による取組の困難さ、学校の特色に対する感じ方の違いなど、地域が求めている学校像と実態とのギャップがあると考えられる。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

・学力向上の取組に関しては、良い評価である。今後は、幅広い学力を持った生徒たちに合わせて、それぞれに合った対応ができるように、カリキュラムや指導方法を検討していく必要がある。

・生活指導では、好ましい態度やモラル、マナーなど、基本的な生活態度の指導を継続していく。

・進路指導では、学校と家庭の相違を解消できなかったことや過去の苦情に関する思い、指導に対する保護者一人ひとりの考え方の相違によるものだと考えられる。意見を取り入れながら、学校としての方針を明確にして伝えていく必要がある。

・学校評価アンケートに寄せられた意見の一部にアンケート記述内容全てについて公表を求める意見があった。内容を精査して、検討する。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・保護者のアンケート結果から、保護者との連携やいじめ防止等の取組、情報の開示の充実が必要であると認識できた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・対象者を意識した情報発信の工夫が必要である。

・地域・保護者に学校の実態を理解させ、協力しながら課題に取り組んでいける関係を築く必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。

・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。

(2) 学習指導

・学力の底上げと同時に、伸長する工夫が必要であり、研究授業等で啓発を行う。

(3) 特別活動

・今年度は文化祭の飲食が行えなかった。来年度に向けて平常時での行事運営の継承が必要である。

(4) 生活指導

・家庭とともに基本的な生活習慣を身に付けさせる工夫を行う。

(5) 進路指導

・進路実現のため、入学当初から目的意識をもたせるようなキャリア教育を行う。

(6) 健康・安全

・担任やスクールカウンセラーとの面談を通して、少しでも自己有用感をもたせるようにする。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう思う | どちらとも言えない | あまりそう思わない | そう思わない | 分からない | 無回答 |
|------|--------|-----------|-----------|--------|-------|-----|
| 5 | 3 | | | | | |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回 【成果】

8 その他

・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。